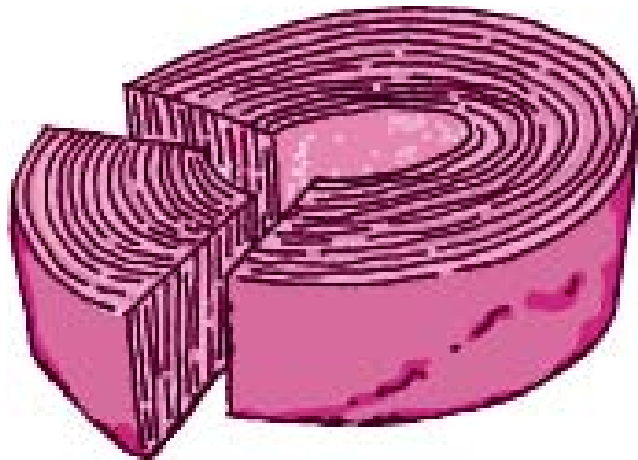


ドイツの伝統行事「ケーキと泉の祭り」

ドイツの都市「シュヴェービッシュ・ハル」には毎年5月下旬に「ケーキと泉の祭り」と呼ばれる祭りがあります。14世紀から続いている伝統的な祭りで、起源は2500年前にさかのぼるといわれています。昔、町の小屋が火事になり若者がこれを消しとめ、お礼として直径2メートルもの巨大なケーキを送ったという伝説が起源という説があります。また、最初に火事を知らせたのはニワトリだった説もあり、パレードをする女性の中にはニワトリの形のワイン壺を持っている人もいます。祭りには多くの人が中世の民族衣装を着たり、当時を再現する劇をしたり、鼓笛隊がパレードを行ったりしています。

ドイツのケーキでは**バウムクーヘン**が有名ですが、他にも**木の実や果物を使ったケーキがポピュラー**で、ケーキ屋には様々な種類のケーキが並び、**ケーキは食文化にしっかりと根付いています**。日本のふわっとしたスポンジケーキと違い、**生地が固めでしっかりとしたもの**



が多く、カフェで注文すると横倒しになったケーキにフォークが刺さって出てくることが多いそうです（運ぶ途中でフォークが落ちるのを防ぐため）。また、凝ったデコレーションがされるのではなく、**素材の味を活かした素朴なものが多い**のも特徴です。